

R-18  
ADULT  
ONLY

僕と恋する  
ポニッツゴロイ  
♡



【タマリバハムート】

エリート龍族バハムート家のポンコツ一人娘。怠惰でワガママ、回が悪い。  
現在は人間界で『龍泉寺愛花』と言う名前で留学教師をやっている。  
純人間の藤真蓮と何やかんやあって交際中。最近はエッチの時に股が緩いのが悩み。



# 【とある仕事のポンコツ娘】

「何でタマが休日出勤で事務仕事なんぞ  
しなくちゃならんのですか〜くああ〜…」

「その休日出勤に付き合わさせられてる  
俺の方がもらい事故なんだけど」

「それは彼氏なので当然なのです。

無駄口叩く暇があるなら、  
コーヒーでも淹れて下さいなのですよー」

「へいへい、分かりましたよー」

「…まあ寮関連のマ界仕事だから、  
誰もいない休日にしか出来ないしねー」



「……………な、なんでその国家機密を、蓮ちゃんが知ってるのですか……？」

「いや何でって。だって俺の部屋の机の上で丸見えだったよ、国家機密」

「タ、タマのおっぱいとかまんこだけじゃなくて、そんなのまで覗いてるとか！ ダメなのですよ！」

「タマちゃん何だかんだ言っただけで真面目だしね」

「そ、それは、これやっとなないと、腐ったみかんどもが困るかもですし……その……！」

「はいはい、タマちゃんは偉い偉いね♪  
ほらナデナデしてあげよう、よーしよしよしよし♪」

「んああもうっ！ タマをバカにするなのですよ！  
蓮ちゃんのくせに生意気なのです！ めあー!!!」

「はむ、んっ…♥ ちゅ、ぢゆる…れろれろ、れろ…♥ ぢゅっ…はむ、んっ…ちゅ、ちゅ、ちゅ…♥」

「…あの、タマちゃん？ これは一体…」

「ん？ 可愛い彼氏にご褒美なのですよ♪ タダ働きとか言われるのも気分が悪いことですか？  
それにタマの方がオトナなのですから、蓮ちゃんはアヘアヘ喘いでればいいのですよ♥」

「ぢゆる、じゆる…ほら、そんなこといいながら、こんなにカタくして♥  
職員室で先生にフェラしてもらえるなんて、人生で滅多に味わえるものじゃないのですよ？」

「ほら、蓮ちゃんはバカみたいに喘いで、せーえきびゅくびゅくしてればいいのです…♥  
ぢゆるるっ、じゅっ、れろ、ぢゅっ♥♥ んっ、んっ、じゆるっ、ぢゆるるるるっ♥♥♥♥」



「タ、タマちゃんっ…！ ま、また出るっ…！」

びゅるるっ！！ びゅるっ！ びゅんっ！ びゅんっ！ びゅるっ！ びゅんっ！！

「くす…♥ まだ10分経ってないのに、もう3回目なのですよ？」

「このままじゃ4回目もすぐなのですね？ はむ、じゅるっ、ぢゅるるるっ♥♥」

「ほらほら、もっと可愛い声で鳴いて、

まただらしなく射精するがいいのですよ♥

そしたら、タマのオナニーのオカズにしてあげるのです♥

じゅる、ぢゅっ、じゅっ、ぢゅるるっ♥♥♥」

「へうっっ…！ タマちゃんがその気なら、こっちだって…」

「んあああつ：！！

夕、夕マのまんこに入れていいなんて、言ってな…！！

あつ、あああああつ：❤

そんなぐちよぐちよにしちゃ、ああつ、んあああつ❤❤❤

「あつ、やあつ！ こんな、職場で犯されてるなんて…！！

はあつ、だめえこんなの、すぐにイっちゃ、

ああつ、あああああつ！！」

「すっげ…！ タマちゃんのまんこ、ぐちよぐちよで気持ちいい、くううう」

「も、もしかして…こ、このまま中で、射精するつもりなのですか…！？」

そ、そんなの、だめなんです…！！今中出しされたらう…！！

お、おねがい、おねがいなんです…！！  
やめて！ おねがい、それだけは許し——」



「ふあ…あ、ああつ… また、タマのなかで、どくどくして…」

びゅんびゅん… びゅんびゅん… びゅんびゅん… びゅんびゅん…

「も、もうゆるしてくださいなの、です… いくらでも、だめなのに…  
こんな、なんかいいも、休みなしで中に出すなんて…  
もう、死んじゃうのですよお…」

びゅんびゅん… びゅんびゅん… びゅんびゅん… びゅんびゅん…

「あ、ああ…も、もうだめえ…」

「タマは、学生に中出しでイジめられて、職員室でお漏らししちゃダメドラゴシなのです…  
でも、きもちよくて、もっとして欲しくなっちゃう、  
ヘンタイさんになっちゃったのですよお…」

—この後、二人でめちやくちや職員室のお掃除しました。



# 【とある魔術の禁書目録のポンコツヒロイン】

「バハムート財閥のひとり娘に不可能はないのですよ♪  
貸し切りなら可愛いタマの水着姿を他のオトコの視線に晒さないで済むことですし♪  
今回は海の家も無しなので、ほんとにふたりきりなのです！ さあ彼氏としてタマを褒め称えるのですよー♪」

「ほんっとバハムート家は何でもアリだなあ」

正直、財閥が無敵過ぎて想像を絶し過ぎる…

「でも今回のビーチ貸し切りの代わりに、  
次の帰省の時には彼氏を連れて来いって言われちゃったのですよー♪  
もー改めて言われると照れちゃうのですねー♪」



「……………えっ。いきなりバハムート家に挨拶とか、ちよっと心の準備的に困るんですけど…」

「むあー！ あんな流れで人の処女奪つといて、いまさら何言ってるやがるのですか!? バカじゃないのですか、このドラゴンキラー!!」

「いや、その、もうちよっと距離感を詰めてからにしたいって言うかさ？ ね？」

あと実家って中国のどえらい山奥じゃなかったっけ？ そもそも俺パスポートとか持ってないし……」

「じゃあ砂山崩しで勝負なのです！ 勝った方の言うことを何でも聞くのですよ!」

「何でもって、そんなまた横暴な!!!」



「あああああつつつ…！ そんな、前戯もなしでえ…！！」

「負けたら好きにしていって、もしかして、こういうこと期待してわざと負けたの？ こんなに濡れてるし」

「タ、タマはほんとに親に紹介したくて、あっ、やあああああつつ！！  
そんな、いきなりめちやくちやに動いちや、あっ、やあああああつつ！！」

「びゅっ！ びゅるるっ！！ びゅっ、びゅるるっ！ びゅ、びゅっ！！」

「んあああああつつつ…！！  
何も言わずに中を出すなんてえ…！！  
こ、こんなのひどい…！ ひどいのですよあ…！！」



「うううっ…！　れ、蓮ちゃんの鬼畜…！」

親に挨拶もしないくせに、  
性奴隷みたいは何回も好き放題犯すなんてえ…！！

「タマちゃんが勝ったらちゃんと挨拶に行くよ。」

でも今は俺が勝ったんだから仕方ないよね？」

びゅるっ！　ばびゅっ！！　どくっ、どくっっ！　びゅんんっ！！

「んあああああっっっ…！！　ま、また中…！」

ああっ…ひいつ、やあああああっっ…！！

「あああっ！　な、中出ししながら動くなんてえっ！！

あっ、だめ、だめなのですっ！！　イク、あああっ！！

「しおも、おもらしも止まらなっ、んああああ！！

だめ、タマ、またイっちゃ、ひっ、あああっ…！！

んあああああっっっ…！！

「タマちゃん、また中に出すよっ…!!」

「だめ、だめ、だめえっ…! ほんとに、こんなのおかしくっ…!」

「こ、これ以上きもちよくされたら、タマ死んじゃうっ、死んじゃうのですあああああっ!!」

どくっ、どくんっ!! びゆる、びゆるるっ! どく、びゆるるるっ!!

「んあああああっっ…!」

はっ、あっ…あああああっっ…っっ…!!

イヤイヤするタマちゃんを無視して、  
もう何回目かも分からないまま好き放題に精液を流し込んでいく。

「く、うう…まだ出る…!」

「はあああっ…! もう、むり…! これいじょうはあっ…!」

もう、タマのまんこも、子宮もいっぱいで…入らないのですよお…あああっ…!!」



「ああっ…は、ああううう…っ…♥ れん、ちゃあん…♥  
もう、ゆるして…もう、イかせちゃやなのです…♥  
あああ、はうう…♥」

「ごめん、タマちゃんが可愛くてやり過ぎちゃった…大丈夫？」

「だいじょうぶ、なわけ…あるわけ、ないのですよお…♥  
こんな、蓮ちゃんのオモチャみたいに好きほうだい、おかされてえ…♥  
ばかあ…♥♥♥」

「帰ったらパスポートの取り方、一緒に調べようね？」

「うん…♥ ぜったいの、やくそくなのですよ…?  
こんなに好きほうだい、中に出したんだから…ちゃんと責任取らないと、  
許さないのですからあ…♥」



# 【とある休日のポンコツドラゴン】

「も〜、耳掃除くらい自分でやればいいと思うのですよ〜……?」

昨日も朝までずっとエッチしてたのですから、眠いのはお互い様なのですよ〜……!」

「あーきもちー。タマちゃんとダラダラ過ごす休日、ほんとに幸せ〜」

「はいはい、タマも幸せなのですよーだ。もうちよつとこっちに顔向けてなのです〜」

働いて  
も

「やっぱり可愛い年上彼女は最高だなあ〜。  
このまま死んでもいいってくらい幸せだ〜。  
あ、もうちよつと奥の方もお願い〜」

「もーこういう時とエッチしてる時はっかり  
調子いいこと言うのですから〜。  
次は蓮ちゃんがタマにひざまくらで  
耳掃除してくれなきゃダメなのですよ〜?」

「タ、タマちゃん、ちよっと、くすぐった…!!  
んっ…!! ちよ、タマちゃん…んっ…!!」

「くす、蓮ちゃんの気持ちよさそーな声を聞いてると、  
何だか、ヘンな気分になって来ちゃうのです…♡」

「じゃあ恋人らしく…  
もったきもちーこと、  
しましよーか?」

恋の  
まじり



「んっ、んんっ…ぢゆる、ちゆ… はむ、れんちゃん…ん、ぢゆるる…♡  
タマ、またイっちやいそうなのです…ん、ぢゆる、んっ、ぢゆるる…♡」

「うん、何回イっても。  
今日はまったり、何回でもイかせてあげるから」

「うん、蓮ちゃんもいいのですよ、何回射精しても…  
ちっちゃくなくても、まったりフェラで元気にしてあげるのです…  
だから、出したくなったら出せばいいのですよ…？  
その度に全部、飲んであげちゃうのですから…  
ぢゆる、ちゆるる…♡♡」

「あ…タマちゃん、また…出そ…」

「ん…分かったのです、ちゃんといっぱい…  
きもちよく、射精させてあげるのです…  
んっ、ぢゆる、ぢゆるるるるっ♡♡♡」

「んっ、ちゅるる…ちゅ、んぐ、じゅ…♡  
んっ…ちゅ、んぐ、んぐ…♡♡♡  
れんちゃんのせーえき…5回目でも、  
まだまだ濃くて、いっぱいなのです、  
はあ…♡」

「タマちゃんのまんこも、愛液と潮とおしっこで  
ぐっちやぐっちやでおいしいよ…♡じゅる、じゅる…♡」

「くす…♡ イった後、ちよつとやわらかくなってる  
蓮ちゃんちんほも大好きなのです…♡  
これがまた、ちゅ、ちゅ…♡  
だんだん力たくなってくるのがキョんキョんするのです…♡」

「それを悦んで飲んじゃう蓮ちゃんだって、  
十分ヘンタイさんなのですよ？  
似たもの同士なのです、タマたちは♪  
はむ、ちゅ、ちゅる、じゅるる…♡」

「タマちゃん、また出すよ…?」

「くす、もう何回目だと思ってるのですか…? いいですよ、タマのまんこの中に、いっっぱい、中出しして下さいなのですよ…♡」

「んあっ…♪ は、あああ…♡

あったかいせーえき、出てるのです…♡  
はあ、ああ…イく、タマもお…♡♡♡」

「はああ…さいこーにきもちーのです…♪ はげしく犯されるのも、きもちくて幸せですけど… れんちゃんと、だらだらえっちも… 一日中しあわせで、体も心もとろとろなのです…♪」

「はあ…もう何回出したかも覚えてないや…」

「タマも、何十回いったか覚えてないのですから、蓮ちゃんといっしょなのですよ…♡」

「これからも、ずっと、ずーっと、仲良くしながら…  
赤ちゃんが出来ても、蓮ちゃんとタマが年をとっても…  
ずーっと、愛し合いながら生きていくのですよ…?」

「何当たり前のこと言ってるの。当然でしょ?」

「くす、当然なのですね…?」

「タマの身も心もぜんぶ捧げたのですから…」

さより（以下『さ』）：こんにちは、さよりです。

雪仁（以下『雪』）：イヴどうお過ごしでしたでしょうか。自分は会社の床で寝違えました。

さ：2月に「ネコぱらvol.2」、5月に「僕と恋するポンコツアクマ。すっごいえっち(以下『恋クマSE』)」の発売を控え。絶賛修羅場中の私と雪仁さんですが、なんとタマちゃんのフルカラー描きおろし本を作る奇行に走りました。

雪：愛ゆえに。提案された時は相変わらず狂ってるなあと思いましたが、その愛に応えんわけにはいかんだろうと一緒に現実逃避した気がします。でもまさかこの短期間で立派な絵の本が出来るとは思わなかった（本音

さ：恋クマ本編に比べたら差分ないからマシね。最近は漫画だって毎回1週間ちょっとで描いたし。

雪：これ事実です、皆様。ほんとパない。

さ：タマちゃんの頭の角とか、本編でもまだ出てない設定も出させてもらっちゃいましたし。

雪：ええんやで（本編で触れる隙間がなかったし）。

さ：でもここまで汁ダクなのは予想外w雪仁さん間に合わないと思いながらこの発注とか鬼畜w

雪：いやでもまあお陰さまで恋クマがエロいと評判未だに評判見ますしねえ（話題転換。FD出せることになったのもさより汁のお陰様やで。多分。ちなみに恋クマSEも汁たくですえ。

さ：ついに汁差分1000枚。

雪：（指定出したら描く気がするから恐ろしい）

さ：雪仁調教のせいで自然に汁を増やす体になってしまったのです。

雪：じゃあ『スミレと言えばさより汁』って言うカラーイメージを広めて行きましょう。

さ：ジュースマミレの略、スミレ。

雪：心のイネを押しおきました。なので申し訳ないのですが、SEでも死んで下さいお願いします。ネコぱら2もまあ差分こそ控えめですが、枚数はなかなかヤバい枚数になってますしね！真面目な話、中身に関して超お任せしてもらえてるので、ここっていう希望したところ全部に絵を入れられるのはライターとして嬉しいことですから。

さ：同人ってそんなもんじゃないです？

雪：その姿勢が好き（意外なとこで言質取ったわwww）

さ：続編出すたびにCG数が増えていく自虐行為

雪：でも絵が多ければさよりファンも喜んでもらえますしね。さよりさんが命を削る度にファンが喜んでくれる！ネコぱらハーレムの発注、泣けてくるほど嬉しいと思うんで楽しみにしてて下さい。だって同人だから！

さ：恋クマSEもハーレムあるし、来年はハーレム尽くしね（白目

雪：まあでも恋クマもネコぱらも喜んでくれる人が多いので、命削って喜んでもらえるなら、こっちは喜んで命削りますよ！主にさよりさんの！

さ：時間さえもらえれば……。

雪：じゃあ今の内容をあとがき用にちゃちゃっと書き起こしますね。

さ：えっ。

雪：いや入稿までもう時間ないですし。これが素の会話ってことで、みなさん良いお年を！

さ：みなさん良いお年を！そしてネコぱらも恋クマも買ってください！（必死な宣伝）

## 【僕と恋するポンコツドラゴン♥】

発行

NEKO WORKs

発行日

2015.12.31

HP

<http://sayori.sabori.com>

印刷所

関西美術印刷

「僕と恋するポンコツアクマ。」  
竜泉寺 愛花先生ことタマちゃん  
とのおもしろしが止まらない  
ラブラブアフターストーリー♡

